平成30年度　市川市立図書館評価報告書

令和元年12月

1．趣旨

この報告書は、「図書館法」（昭和25 年法律第118 号）第７条の３、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24 年文部科学省告示第172 号）、「市川市立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」（平成21 年教育委員会規則第６号）第１条の２及び「市川市中央図書館の管理に関する規則」（平成６年教育委員会規則第９号）第２条に基づき、平成30 年度の市川市立図書館の運営状況について評価・分析を行いサービス向上に資するものである。

2．評価内容

「市川市立図書館運営基本計画」第３章 実施計画編（平成30 年度～令和２年度）の具体的な施策に沿って行った取り組み内容と、目標値等の達成度に基づき、平成30 年度の市川市立図書館の評価を行った。

3．評価の基準について

市川市立図書館の「7 つの施策の方向」の各項目ついて、取り組み内容と目標値の達成度を総合してＡ～Ｄの４段階評価を行った。これに基づき、総合結果として「3 つの柱」についての取り組みを４段階評価で表した。(3 つの柱と７つの施策については市川市立図書館運営基本計画 p.7 を参照)

実施内容	評価
十分達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、目標を上回る成果があった。）	A
概ね達成できた。　（目標どおり取り組みを実施し、一定の成果をあげた。）	B
やや不十分だった。（実施したが、十分な成果をあげることができなかった。）	C
不十分だった。　（実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。）	D

4．自己評価結果

平成30 年度は、「市川市立図書館運営基本計画」の３つの柱のうち「地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館」は、全ての目標を達成することができA評価となった。特に、地域行政資料については積極的な収集を行い、利用者アンケートでは地域行政資料に対して高い満足度が示された。「情報拠点として市民の学びを支える図書館」「子どもの成長をサポートする図書館」の２つについては、市民の学習要求に応えられる資料の選定を行ったが、購入単価の上昇等の要因により、資料の受け入れ冊数が目標値に及ばなかったためＢ評価となった。

全体としては、7 つの施策の方向のうち３つがＡ評価、４つがＢ評価であったため、30 年度の目標は概ね達成でき、一定の成果をあげたといえる。

5．平成30 年度市川市立図書館評価に対する外部有職者からの意見　…詳細は別紙

外部有識者２名（図書館情報学）から、平成30 年度の市川市立図書館評価についてご意見をいただき、自己評価は概ね適切であると認められた。また、実施結果や評価方法に対していただいた課題やアドバイスについては、今後の図書館運営に活かしていく。

平成 30 年度 「市川市立図書館運営基本計画」に基づく図書館評価結果

総合結果

1. 情報拠点として市民の学びを支える図書館

評　価	□A〔十分達成できた〕	■B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

資料の受入冊数については目標値に届かなかったが、西部公民館図書室の蔵書管理を市立図書館と一元化したことで、北西部地域の利便性の向上を図ることができた。また、図書館情報システムの更新に伴う新たな合理化や機械化を実現するなど、ICT の活用を通じたサービスの深化・拡充を図ることができた。

今後予定している全館的な IC タグによる資料管理を見据え、中央図書館の保存機能を意識した資料の選定や適正な蔵書の維持に努めるとともに、連携やイベントなどの機会を活用した図書館の利用の拡大を引き続き進めていく。

2. 子どもの成長をサポートする図書館

評　価	□A〔十分達成できた〕	■B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

児童・青少年資料や学校向け貸出資料の受入冊数は目標値に届かなかったものの、新たな参加・体験型イベントの実施、小学生 1 年生向け利用案内や郷土に関するパスファインダーの作成・配布等、児童・ヤングアダルト世代に対するサービスを積極的に展開し、概ね目標を達成した。

今後も、学校や地域と連携したイベントを企画・実施し、本の魅力をより多くの子どもに伝えていく。

3. 地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

評　価	■A〔十分達成できた〕	□B〔概ね達成できた〕	□C〔やや不十分だった〕	□D〔不十分だった〕

地域行政資料の収集や電子化、地域情報データベースの更新を行う等、様々な媒体によるサービスの充実に努め、全項目で目標を達成した。新たにデジタルアーカイブシステムを導入し、電子化した地域行政資料を館内 Web-OPAC で公開することで、地域情報の積極的な発信に努めた。また、行政各部署と連携した行事や展示を行い、行政情報を市民に提供することができた。

今後も、地域の文化を後世に伝えるために地域資料の電子化を継続して行い、積極的な地域情報の発信を図る。

30 年度の取り組み内容

一つめの柱　情報拠点として市民の学びを支える図書館

施策の方向　1－(1)「様々な市民の学習要求に応えられる、蔵書の収集と維持」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①蔵書の維持と更新	・新規資料の受入れと劣化資料の買い替えによる蔵書の適正な維持（購入と寄贈の合計冊数）	50,000冊	42,513冊	B
②利用に応じた様々な形態の資料の充実	・利用しやすい電子資料等の収集についての調査及び導入の検討	調査・導入の検討	導入	
	・障がいの特性に応じた資料の収集と目録の整備	DAISY図書の目録の作成	DAISY図書の目録の作成（墨字版）	
③効果的な蔵書管理	・図書館資料へのICタグの貼付及びIC機器導入と、全館的なICタグによる蔵書管理の実施	図書館資料へのICタグ貼付	ICタグの貼付（約70万冊）	
④資料保存のための書庫の確保	・中央図書館の書庫への可動式集密書架の設置と活用	可動式書庫の活用	可動式書庫の活用	

実績と評価

蔵書の受入れ冊数は目標値の約 85%（大野・西部公民館除く）であった。図書館としての保存に耐えうるような資料選定を心がけたこと等により購入単価が増加したことが一因としてあげられる。

館内 Web-OPAC にデジタルアーカイブシステムを導入し、電子化した資料の館内公開を開始した。また、効果的な蔵書管理として、平成 31 年度の中央図書館への IC 機器導入に向け、中央図書館と信篤図書館の蔵書へICタグの貼付・登録を行った。

課 題

限りある予算を有効に利用するため、的確な資料選定を継続して行うとともに、様々な形態の資料の充実を図り、適切な蔵書管理を全館で進めていくことが課題である。

方向性

図書館全体で市民の学びを支えられるよう、引き続き各図書館の役割やニーズを意識した資料の選定を行う。中央図書館が地域図書館の蔵書面での支援を行い、市全体としての蔵書のバランスを考慮した調整を図る。

IC による蔵書管理を全館で展開していくほか、媒体にとらわれない情報資源の整備についても引き続き検討していく。

施策の方向　1－(2)「図書館機能を活用した、生涯学習機会の提供と充実」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①レファレンスサービスの充実	・レファレンスツールおよび事例集の提供	継続発行・発展	継続発行・発展（15回）	B
	・市内外の図書館等との連携の強化（レファレンス協同データベースへの事例提供）	実施	実施（222点）	
	・市民の学習要求や調査研究に応えるデータベース等の提供及び利活用の促進	実施	実施	
②利用しやすい情報環境の整備	・図書館ホームページ、デジタルコンテンツ等の情報環境の整備	実施	実施充実	
③生涯学習機会の拡充	・中央図書館及び地域図書館の特性を活かしたサービスの拡充とPRによる利用の促進（図書館利用登録者数の拡大）	前年度比増（前年度29,201人）	29,095人	
	・北部地域の図書館サービスの充実	実施と周知	実施充実	
	・イベントの開催や地域イベントへの参加・協力	実施	実施（20回）	

実績と評価

レファレンスは全館で約 63,000 件の受付・回答を行い、中央図書館は地域館のバックアップも行った。

また、12 月の図書館情報システム更新に伴い、座席管理システム、デジタルサイネージ、書庫出納管理システム等の新規導入や、図書館 WEB ページの機能拡充など、利用環境・情報環境の整備を図った。

図書館利用の促進を図り、地域イベントに参加したほか、新たに大柏川ビジターセンターで自動車図書館車を用いた図書館のPR活動を行い、図書館登録者数を目標値に近づけることができた。また、3 月より西部公民館図書室の蔵書管理をバーコード化し、市立図書館と一元化した貸出・返却、蔵書検索、予約等が可能となったことに加え、同室で図書館利用券の発行を開始したことが、北西部地域の図書館サービスの充実につながった。

課 題

利用者向け案内の整備や図書館の活用についてのPRを進める必要がある。利用登録者数拡大のため、来場者を惹きつけるイベントの工夫が課題である。

方向性

今後予定されている中央図書館での自動貸出機等の導入により、利用者サービスの向上を目指すとともに、図書館の利用を促進するため、イベントの開催や広報活動を引き続き積極的に行っていく。

施策の方向　1－(3)「関連機関とのネットワークの充実と、質の高いサービスの提供」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①関連機関との連携による、各地域における図書館サービスの充実	・関連施設との連携による図書館サービスの充実	実施	実施	A
②大学図書館との連携と利用の促進	・市民の大学図書館利用のための紹介状の発行	実施	実施（153件）	
	・市内大学及び大学図書館と市立図書館の各種行事等の相互PRと利用の促進	実施	実施	
	・大学生の図書館実習、インターンシップ等の受入れ	実施	実施（3名）	
③ボランティアとの連携強化	・図書館友の会と連携した行事等の実施とボランティア活動の支援	実施	実施（5回）	
	・障がい者サービス関連のボランティアと連携した、障がい者向け資料の作製と収集	実施	実施（31点）	

実績と評価

大学図書館との連携では、市川駅南口図書館が千葉商科大学大学付属図書館で行った「出張登録会」で 100 名を超える市立図書館利用券の新規登録者があったことに加え、紹介状の発行も 150 件を超え、大学図書館との相互利用の拡大がみられた。また、和洋女子大学の学生の図書館見学会を今年も継続して実施したほか、平成 30 年度は新たに同大学から講師を招聘して講座「だしの力」を開催した。講座のアンケートでは「役に立つ内容だった」と回答した参加者が 100％となり好評を得た。

課 題

今後も継続して公民館等、関連施設と連携をとりながら、各地域におけるサービス内容の整理を進めていく必要がある。

方向性

大学や関連施設との連携により、各地域における図書館サービスの拡充と地域住民の利便性の向上を目指す。また、ボランティアとの連携を強化し、より質の高い図書館サービスの提供に努めていく。

二つめの柱　子どもの成長をサポートする図書館

施策の方向　2－(1)「発達に応じた豊かな読書のための環境整備」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①児童・青少年資料の充実	・子どもの発達段階に応じて豊かな読書体験ができるような資料の収集と更新	受入れ冊数（9,000冊）	受入れ冊数（8,824冊）	B
②行事の実施と情報の発信	・子どもの読書活動の推進のための行事の実施と情報の発信	継続実施及び拡大	継続実施及び拡大	
③レファレンス・読書相談の実施	・調べ物に役立つ資料の充実や探し方についてのレファレンスツールの整備	実施	実施拡大	
	・大人に対しての子どもの本についての読書相談等の実施	実施	実施継続	
④ヤングアダルトサービスの実施	・中学・高校生のもつ課題の解決(学習、生活、進路等)を支援するための資料の提供	実施	実施	
	・図書館と中学・高校生を結びつける行事の実施や刊行物の発行	実施	実施(10回)	
	・中学・高校生へのヤングアダルトサービスのPR	実施	実施充実	

実績と評価

資料の充実については、乳幼児向けや調べ物の本の買い替えを重点的に行った。

イベントは、「英語の絵本の会」や謎解きゲーム「名探偵ホームズと挑戦」等を新たに開催した。また、情報発信として、利用案内「としょかんへいってみよう！」を市内公立小学校の1年生全員に配布して図書館の利用促進に努めた。また、レファレンスの多い「市川の海苔」のパスファインダーを作成し、調べ学習に役立つと好評を得た。

ヤングアダルトサービスとして、「YA 図書館脱出ゲーム」や「「YA ハロウィン！コスプレフォトツアー」など参加型イベントを開催し、ヤングアダルト世代の図書館への来館を促した。市内中学・高校生が自主的に図書館PR活動をするYサポ活動を 20 回実施し、図書館とつながるきっかけ作りになると同時に、中高生が同世代に向け図書館の情報を発信することで、世代に合った効果的なPRを展開することができた。

課 題

児童書の単価が上昇している中、子どもたちが興味を見出せる資料をいかにバランスよく購入していくかが課題である。また、小学生を対象とした読み聞かせの会について参加者の定着を図るため、開催日や時間、内容面等を検討していく必要がある。

方向性

子どもの発達に応じた魅力のあるイベントを実施することで、子どもたちやヤングアダルト世代が読書に親しむ機会を提供していく。また引き続き、子どもと本を結びつけるブックリストやパスファインダー等を発行し、子どもの読書活動を支援していく。

施策の方向　2－(2)「公共図書館と学校等との連携の強化」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①出張おはなし会・学級招待の実施	・「出張おはなし会」「学級招待」の対象学年の拡大とプログラムの充実	実施充実	実施充実（41回 ）	B
②調べ学習及び読書環境向上のためのサポート	・教育センターが所管する「学校図書館支援センター事業」への参加と協力	参加・協力	参加・協力（資料依頼件数517件）	
	・学校図書館向け貸出資料の更新	前年度比増（前年度129冊受入れ）	107冊	
	・外部機関等と連携した児童・青少年サービスの拡大	拡大充実	拡大充実（19回）	

実績と評価

出張おはなし会は、小学校・幼稚園・特別支援学校で内容の充実を図りながら継続して行っていることに加え、新たに中学校でも実施しサービスの幅を広げることができた。

前年度から引き続き教育センター主催の学校図書館研修会に図書館職員が講師として参加したほか、大和田小学校図書室で行われた読み聞かせの研修で図書館職員が講師を務めるなど、「学校図書館支援センター事業」や学校図書館への協力も積極的に行っている。連携事業は、自然博物館と共催した毎年好評の「きょうだけ生き虫ずかん」や、環境政策課共催の「こどもとしょかん環境デー」を行い、昆虫の観察や雲に関する実験、打ち水体験を通して子どもの科学への興味を引き出すことができた。また新たに、いちかわ真間川堤桜まつり実行委員会と連携し、「いちかわ真間川堤桜まつり」でえほんの読み聞かせ会を開催し、連携の幅を広げた。

課 題

学校図書館向け貸出資料については内容の更新を図り、多様化する調べ学習の要求にこたえられる資料を充実させていく必要がある。

方向性

出張おはなし会では、図書館の利用につながるようおすすめの本の紹介や利用券登録の案内を行い図書館の利用につなげていく。また中学校への出張サービスの定着を図る。調べ学習に対応していくため、学習指導要領に沿って計画的な資料の更新に努める。

三つめの柱　地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

施策の方向　3－(1)「市川市の歴史・文化の保存と継承」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①地域資料の収集と提供	・地域行政資料の収集と整理	蔵書冊数 （55,000冊）	蔵書冊数 （59,383冊）	A
②地域資料の保存	・著作権保護期間満了の資料の電子化	実施	実施 （10点）	
③地域情報の積極的な発信	・図書館ホームページの地域情報の追加及び更新	実施	実施	

実績と評価

地域行政資料は、寄贈を中心に、新刊書から古書まで積極的に収集した結果、蔵書冊数の目標値に達した。中央図書館の利用者アンケートにおいても、「地域情報資料の充実について」の満足度が 91%と非常に高い数値となっている。

著作権保護期間が満了した、京成電鉄の沿線案内や古い地図を中心とした資料 10 点の電子化を行った。電算システムの更新に伴い、中央図書館と行徳図書館の館内 Web-OPAC に新たにデジタルアーカイブシステムを導入し、電子化した資料の館内公開を行った。

図書館ホームページでは、「市川の音楽」のページを更新し、市川市に関連する音楽について情報を集約し、地域情報の積極的な発信に努めた。

課 題

地域行政資料を永く保存していくための十分なスペースの確保と資料の劣化対策を計画的に進めることが課題となっている。収集保存している資料について、広く市民が利用できる環境を整備する必要がある。

方向性

地域行政資料の積極的な収集と受入れに努め、引き続き資料の充実を図る。資料の劣化対策として著作権保護期間満了の資料の電子化を進め、デジタルアーカイブシステムで館内公開するコンテンツの充実を図るとともに、図書館ホームページの地域資料データベースを活用した電子化資料の公開についても検討していく。

施策の方向　3－(2)「行政の情報拠点としての役割」

具体的な施策	実施事業	目標値等	結果	評価
①行政情報の市民への提供	・行政各部署や関連団体と連携した行事や展示等の実施	内容充実	内容充実 （18回）	A
	・市の刊行物等の販売及び行政情報リーフレット等の配布	継続充実	継続充実 （販売118点）	
②行政各課への情報発信	・図書館で利用できるデータベース等、レファレンスツール 情報の市の行政各部署への発信	実施	実施 （12回）	

実績と評価

行政各部署や関連団体と連携した展示は、前年度に引き続き、地域支えあい課、環境政策課等と実施したほか、新たに伊能忠敬記念館（香取市）との連携展示を行った。地域支えあい課との連携展示「認知症を知ろう」では、展示期間中、課の担当職員を講師とした「認知症サポーター養成講座」を開催した。講座には幅広い年齢層の参加があり、市民の関心の高い行政情報を提供することができた。また、千葉県博図公連携事業「写真でつづる千葉県と鉄道」展では、千葉県立中央博物館で所蔵のパネル展示に加え、市川市内に本社のある京成電鉄株式会社所有の資料や図書館所蔵の古い鉄道関連資料もあわせて展示し、内容の充実を図ることができた。展示期間中には 887 人が来場、会期中にギャラリートークも実施した。来場者からは「興味深かった」「内容が濃く勉強になった」という声が多く寄せられた。

また、庁内各課へ向けた情報発信として、各部署での政策研究に活かせるよう、調べ方案内やレファレンス事例等を発信した。

課 題

図書館が行政の情報拠点として活発に利用されるために、行政各部署と連携し、市民生活に役立つ地域行政情報を分かりやすく発信していくことが課題である。行政各部署へ向けて、図書館サービスについての定期的なPRを行い、更に連携を強化していく必要がある。

方向性

関連団体等と連携して、市川への理解と愛着が深まるような魅力的な展示やイベントを企画するほか、身近な行政情報を市民に積極的に提供していく。図書館の活用法を行政各部署にPRし、地域の課題解決やまちづくりに活かせるよう情報発信していく。

平成 30 度　市川市立図書館評価に対する外部有識者からの意見　（別紙）

３つの柱に対する、図書館の自己評価、今後の課題等について、外部有識者(図書館情報学) ２名から意見をいただいた。

１．情報拠点として市民の学びを支える図書館

・西部公民館図書室の蔵書管理が市立図書館と一元化され、全域サービスの課題となっていた北西部地域の利便性が向上したことは高く評価できます。中央図書館との緊密な連携、あるいは分館化を推進していくことが今後の課題となると考えます。また、館内 Web-OPAC にデジタルアーカイブシステムを導入し、電子化資料の館内公開を開始したことも、当初予定の調査及び導入の検討から進捗を早め、発信型図書館の取組みを推進したものとして評価できます。館外からのアクセスも可能となるように、コンテンツの拡大とともに更なる充実が期待されます。 蔵書の受入れ冊数が目標値の 85%にとどまったことは残念でしたが、次代への保存に耐える資料選定のために、購入単価の増加が一因となったことは理解できます。具体的にどのような資料に選定の重点が移行したのかは不明ですが、より合理的な調達の方法や必要な資料の寄贈依頼なども含め、蔵書構築に一層の工夫を求められると思います。 全国的にも先進的な活動を展開してきたレファレンスサービスや、市内の大学との連携については、市川市立図書館の強みとして、引き続き、質の高いサービスの拡充を進められるよう望みます。

・資料の受入冊数は目標値に達していないが、適切な資料選定による単価の上昇などによるものであり、「量」と「質」のバランスを確保していることから、必ずしもマイナスに評価すべきではない。また、デジタルアーカイブシステムによる資料へのアクセス環境の向上や IC タグによる管理・利用効率の向上は、さらに進展させてほしい。 レファレンスの受付・回答が 6 万件を超え、身近な相談の場として、図書館が市民にしっかり受け入れられていることがわかる。また、システム更改に伴う機能拡充や公民館図書室の一元管理による利用範囲の拡大など、利便性の向上も生涯学習を支える基盤として重要である。イベント開催やイベント参加・協力や広報・PR の工夫などを通して、図書館の認知・利用がさらに拡がっていくことを期待したい。なお、予定されている自動貸出機の導入を含め、ICT の利用を促進していくによって、図書館の資源を人的なサービスのさらなる拡充に向けていくことを望みたい。 関連機関との連携については、出張登録会や、学生の見学、講師の招聘など、人的な交流が展開されていることを評価したい。利用者ニーズを踏まえながら、連携の対象を適切に拡大・選択していくことが望まれる。

２．子どもの成長をサポートする図書館

・児童・青少年資料と学校図書館向け貸出資料が、目標値の受入冊数にわずかに届かなかったものの、児童書の単価が上昇している中、乳幼児向けや調べる本の買い替えに重点を置いたことは、児童書の特性や利用の状況を踏まえたものとして首肯できます。 子どものためのサービスは、市川市図書館の特長であり、英語の絵本やゲームを用いた活動、学びに資する資料の作成が、これまでと同様に展開されていることは立派です。特に注目すべきは、ヤングアダルト向けの参加型イベントで、必ずしも参加者は多くなかったものの、たいへん面白い試みであり、目先を変えつつも継続的な実施が強く求められます。今後は、身体表現(音楽、演劇、ダンス等)を伴った活動も視野に入れると、新たな展開が可能かもしれません。中学・高校生のボランティアによるYサポ活動と併せ、図書館ならではのヤングアダルトに対する居場所づくり、仲間づくりの場として、読書との接点を提供されるよう望みます。 学校図書館との連携も、全国的に知られる市川市図書館の大きな特長です。出張おはなし会を小学校から中学校に拡大し、また、市の他部署とコラボした連携事業も引き続き実施され、図書館活動の間口の広さに感心します。ブックトークやビブリオバトルなど、読書にいざなう様々な活動を加えながら、学校との密な関係が維持されるよう願っています。

・1. でも触れたとおり、図書館資料は「量」のみでなく「質」も重要である。また、資料を所蔵していることのみでなく、資料が利用されることも重要である。児童・青少年資料の受入冊数は目標に届かなかったが、発達段階に応じた適切な資料選択や資料利用を促進する謎解きゲームなどのイベントの工夫によって、施策の方向性を踏まえたサービスが展開されていると受け止めることができる。とりわけ、ヤングアダルトを対象としたイベント、PR・情報発信を積極的に実施している点は、読書離れが言われる同世代への働きかけとして、ブックリストやパスファインダーなどといったツールによる支援も継続的になされいる点とあわせて、高く評価できる。 出張おはなし会、実験・体験活動、読み聞かせ会など、関係機関・地域と多様な連携の機会をつくり出していることは着目すべきである。子どもたちが主役となる機会づくりを今後も進めていくことが期待される。

３．地域の文化を育み、豊かなまちづくりを支える図書館

・図書館の地域資料は、その図書館のレベルを示すもので、収集・整理・保存・提供のそれぞれにおいて特別な対処が必要となります。蔵書冊数の目標値を達成し、利用者アンケートの結果でも満足度が 91%となったことは、継続的な努力の成果であると高く評価できます。また、資料の電子化も 10 点にとどまっていますが、市の他の文化施設と連携し、全市的な取組みのなかで、図書館としての役割を果たしていってほしいと思います。 地域の行政資料も、公立図書館にとって重要なもので、地方公共団体が設置者であることの根拠を示すものとなります。行政情報の市民への提供は、これまでも行事や展示の活動によって活発に展開され、庁内での図書館の位置づけが明確になっていることが伺われます。一方で、行政支援としての各課への情報発信は、やや影が薄い印象を与えます。図書館が本庁から距離的に離れ、行政事務に図書館資料が必ずしも必要とされないのかもしれませんが、まずは市民への広報の前線基地として、図書館を庁内各課に利用してもらうことが現実的であるように思われます。 地域資料・行政資料の取り扱いとそのサービス活動は、市川市図書館の役所としての力量を示しており、図書館らしい図書館の王道をいっていると解せます。市民にも市職員にも、サービスの成果を劇的に実感してもらうのは容易ではありませんが、これからも地道に取り組まれることを念じています。

・行政資料を含めた地域資料の収集・提供・保存は、公立図書館が地域における中核的な機能を担う重要なサービスである。目標とする蔵書冊数を達成するほか、資料の電子化と公開を進めるなど、着実な取り組みがなされている。今後も公立図書館としての役割を踏まえ、積極的な資料収集とともに、電子化・公開によるアクセス機会の向上をさらにめざすことを期待したい。 行政各部門・関連団体との連携や行政各部門への情報発信など、行政の情報拠点として充実した取り組みがなされている。展示や講座は来場者の評価も高く、今後も継続していくことによって、市川の文化の継承に相応の役割を果たすことが望まれる。図書館として「資料」「情報」に関わる取り組みを軸としつつ、関連団体を含めた市民の力とうまく融合させた取り組みが増えていくことを期待したい。

総 評

・自己評価は妥当であると考えます。ただし、目標値や結果に具体的な数値や状態が示されていないものも少なくないので、適切な評価であることを客観的に見える化していくことが望まれます。

市川市図書館は、全国的にも高度なサービスを展開しており、活動実績を維持していくだけでも大変な努力が要求されていると思います。幸いにも、市役所全体の理解、関係緒機関の協力、ボランティア活動を始めとする市民の支援もあって、たいへん良い図書館運営が続いています。図書館サービスの「不易」なところは、愚直なまでに基本にのっとる一方、さまざまな環境変化がもたらす「流行」のところは、前例にとらわれずにチャレンジしていくことが大切であると考えます。

・三つの柱に対して、妥当な自己評価がなされている。全国的に見ても、公立図書館としてたいへん充実したサービスが展開されており、職員・関係者の努力に敬意を表したい。図書館の「内向き」な取り組みではなく、行政・学校・団体を含めた地域との連携・協力が充実している点は、地域の情報拠点、生涯学習の拠点としての公立図書館として望ましい方向であると受け止められる。とはいえ、職員・関係者を含めて、限られた資源のなかで今後も図書館の活動を拡充していくためには、活動に利用者がさまざまなかたちで「参加」していくような仕組み（利用者協働）をさらに発展させていくことが期待される。